

こんにちは。鈴木 拓です。
「総合実用英文法講座」をご利用いただきありがとうございます。

本講座のサンプルをご覧いただきありがとうございます。

今号は問題の解答と解説になります。

■1. 社長に対してあそこで説明している女性は私の上司です。
(to/boss/lady/president/the/explain/the/be)

S : 社長に対してあそこで説明している女性
V : です

Sは本体のthe lady「女性」に
「社長に対してあそこで説明している」を入れます。

進行形であり、2語以上です。

1語だと、置ける条件が限られていますが、
2語以上だと、問題なく置けます。

S : 略
V : 説明している

S	V
略	explaining

SP?

第1文型で、「社長に対して」と「あそこで」を入れて、現在分詞が完成。
この副詞は動かさない方が自然です。

S	V
略	explaining (to the president) (there)

SP1

主文も↓まで完成。

S	V
[The lady <explaining to the president there>]	is

SP?

第2文型

C : 私の上司

S		V	C
[The lady <explaining to the president there>]	is	my boss	
	SP2		

これで完成となります。

【答え】 The lady explaining to the president there is my boss.

■2. 私は昨日、興味深い映像を見つけて、それを私の同僚たちに送りました
【過去形】 (send/clip/a/find/interest/yesterday/colleague/to)

S: 私
V: 見つけた

S	V
I	found
	SP?

第3文型

0: 興味深い映像

「興味深い」は、interest「興味を持たせる」を現在分詞にすることで表せます。

1語の現在分詞になりますが、感情動詞の分詞は、ネイティヴはhappyのように、元々形容詞と言うように見るので、前につけて全く問題ありません。

S	V	0
I	found	an interesting clip
	SP3	

「昨日」を入れて、前半の文が完成。

S	V	0
I	found	an interesting clip (yesterday)
	SP3	

続いて、andを使って、後半を作っていきます。

S: 略（前半と同じため）
V: 送りました

S	V
略	sent
	SP?

第3文型

O : それ

S	V	O
略	sent	it
SP3		

最後に「私の同僚たちに」を入れて完成です。

S	V	O
略	sent	it (to my colleagues)
SP3		

【答え】 I found an interesting clip yesterday and sent it to my colleagues.

■3. 鳴いている犬が昨日、私が地理の試験のために勉強している時に邪魔をしました【過去形】
(study/dog/for/bark/the/the/exam/disturb/geography/yesterday)

S : 鳴いている犬

V : 邪魔をしました

Sは、dog「犬」に、「鳴いている」をつけます。
進行形であり、現在分詞で表現するところ。

ところが、今回は1語。1語で前につけられるのは制約があります。

しかし、今回はbarking dogと、「よく使われる組み合わせ」であり、使用可能です。

barkingは↓の構造です。

S	V
略	barking
SP1	

主文も↓まで完成です。

S	V
The barking dog	disturbed
SP?	

第3文型

O : 私

S	V	O
The barking dog	disturbed	me
SP3		

「昨日」を入れて、主文が完成。

S	V	O
The barking dog	disturbed	me (yesterday)
SP3		

続いて、when節を作っていきます。

S: 私
V: 勉強していた

S	V
I	was studying
SP?	

第1文型で、「地理の試験のために」を入れてwhen節が完成。

S	V
I	was studying (for the geography exam)
SP1	

そして、文全体も完成となります。

S	V	O
The barking dog	disturbed	me (yesterday) (when I was studying
SP3		
for the geography exam)		

【答え】 The barking dog disturbed me yesterday when I was studying for the geography exam.

■4. このワクワクさせるチームは奇跡と見られている勝利をもぎ取った。
【過去形】 (a/a/team/miracle/victory/excite/see/grab/as)

S: このワクワクさせるチーム
V: もぎ取った

「ワクワクさせる」は、exciteの現在分詞exciting。

感情動詞の分詞はネイティブは形容詞と見るので、
前につけて全く問題ありません。

S	V
This exciting team	grabbed
SP?	

第3文型

0 : 奇跡と見られている勝利

本体のvictory「勝利」に「奇跡と見られている」をつけます。

受動態の意味なので、過去分詞で表現。

1語だと制約がありますが、今回は2語以上なので、問題なく使えます。

S : 略

V : 見られている

S	V
略	seen

SP?

第3文型の受動態で、「奇跡と」という副詞を入れて、分詞が完成です。

S	V
略	seen (as a miracle)

SP3p

そして、文全体も完成となります。

S	V	0
This exciting team	grabbed	[a victory <seen as a miracle>]

SP3

【答え】 This exciting team grabbed a victory seen as a miracle.

■5. イライラしている生徒たちを落ち着かせるのは難しいです。
(down/tough/irritate/be/calm/student)

S : イライラしている生徒たちを落ち着かせるの

V : です

Sが文になっています。

この場合、it is toかit is that.

助動詞も時制もないので、it is toを使います。

S	V
It	is

SP?

第2文型

C : 難しい

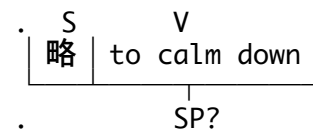
S	V	C
It	is	tough

SP2

続いて、不定詞を作ります。

S : 略

V : 落ち着かせる



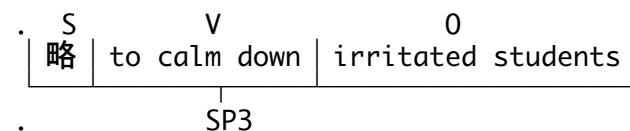
第3文型

O : イライラしている生徒たち

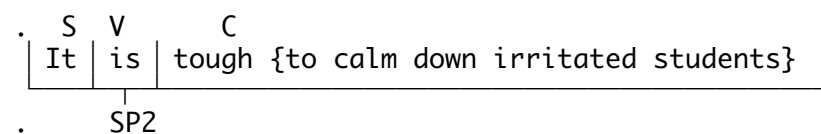
「イライラしている」は、irritate「イライラさせる」の過去分詞。

受動態で、「イライラさせられている→イライラしている」です。

ネイティブのように、形容詞扱いして前につけます。



これで不定詞が完成で、文全体も完成となります。



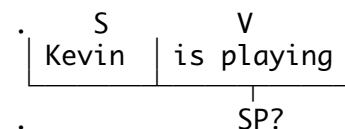
【答え】 It is tough to calm down irritated students.

■6. ケ빈は骨折した指でプレーしている。

(a/play/break/Kevin/with/finger)

S : ケビン

V : プレーしている

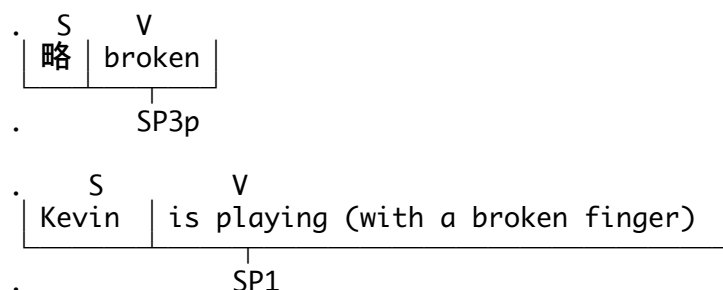


第1文型で、「骨折した指で」を入れます。

「骨折する」は、英語ではbreakで表現します。
指は「骨折させられた」方なので、形容詞でつけるなら、
過去分詞のbrokenです。

そして、今回は「骨折して、今も骨折状態」という状態の意味。
そして、brokenはその意味で、名詞の前に1語で置いて使える分詞
でした。

なので、前に置いて使います。

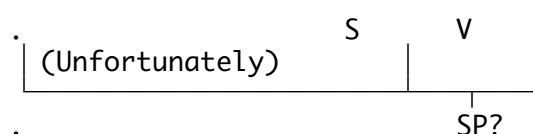


これで完成となります。

【答え】 Kevin is playing with a broken finger.

■7. 残念ながら、この青色の古いコンピューターは壊れていますよ。
(computer/blue/unfortunately/old/break)

最初に「残念ながら」を入れてしまいます。



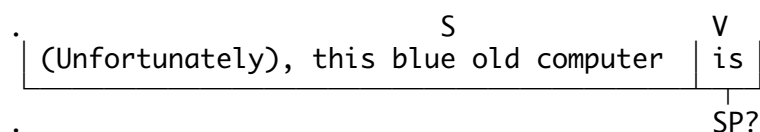
S: この青色の古いコンピューター

V: 壊れています

これは、breakを受動態にして表現することも考えられます。

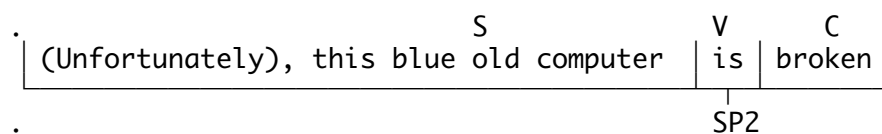
しかし、今回は「壊れた状態である」ということを言いたい。

その場合、ネイティブは受動態ではなく、brokenを形容詞のように見て、Cに入れて表現するので、今回はその形で表現して行きます。



第2文型

C: 壊れている



これで完成となります。

【答え】 Unfortunately, this blue old computer is broken.

■8. 私はこのイライラする用事をやらなくて良いので、ホッとしています。
(annoy/relieve/do/chore)

S: 私
V: です

S	V
I	am

SP?

第2文型

C: ホッと

これはrelieve「ホッとさせる」の受動態で表現できるのですが、感情動詞の分詞はネイティブは形容詞として見ます。

なので、relievedを形容詞扱いして入れます。

S	V	C
I	am	relieved

SP2

続いて「このイライラする用事をやらなくて良いので」を入れます。

relievedは形容詞として見るので、
「S be動詞 感情形容詞」という語順をしています。

その場合、後ろにthat節をつけるか、感情用法として不定詞をつけられます。

今回は「～しなくて良い」という助動詞があるので、that節を作ります。

S: 私
V: やらなくて良い

S	V
I	don't have to do

SP?

第3文型

O: このイライラする用事

これはannoy「イライラさせる」の現在分詞で表現できます。

感情動詞の分詞はネイティブは形容詞扱いなので、普通に、名詞の前につけて使います。

S	V	O
I	don't have to do	this annoying chore

SP3

これでthat節が完成で、文全体も完成です。

	S	V	C
I	am	<relieved that I don't have to do this annoying chore>	

SP2

【答え】 I am relieved that I don't have to do this annoying chore.

第26号の内容は以上となります。

今後も英語学習のお役に立てればと思っておりますので、
何卒よろしくお願いいたします。